

高退協 ニュース

高退協事務局

1982. 7.

No. 14

- ・高知県退協に参加を！
- ・機関誌第三号をつくりましょう
- ・会費納入のお願い
- ・ひとつの政治決戦
- ・国連軍縮特別総会に参加して

高知県退協職員連絡協議会(略称県退教協)に参加を！

事務局

会員の皆さん、お元気で暮らしていること存じます。第二の人生といえる退職後が明るくて、楽しく生き甲斐のあるものであってほしいことはみんなの願いです。それには何といたしても生活の安定と健康が土台になると思えます。

しかし現実には公共料金の値上げ、物価高の中で年金は物価にいつかず、高い保険料と医療費を支払わねばならず、現職時代とは比較にならないほど生活を圧迫しています。

このように厳しい情勢の中、高知県退協職員連絡協議会は、退職教職員の生活と権利を守り、社会保険を確立発展させるため、会員の経済的・社会的・政治的向上をはかると共に親睦をはかり、あわせて現職教職員とともに民主教育推進のため活動することを目的として、小・中・高一体となつて一九八一年六月一日に結成されました。又結成と同時に全国退職教職員連絡協議会に加盟し、全国の連絡会議と連帯し年金給付・医療保険改善などの闘いを進めています。

退職後の生活不安を解消し、健康で安心できる老後をつくるためにお互いに手をとりあひ一体となつて運動を発展させましょう。

高退協の皆さん、県退協の趣旨に賛同しすんで入会いたしましょう。

退職教職員全国連絡協議会
高知県退協職員連絡協議会
一九八二年度
重要課題と当面の要求
(抜粋)

- ① 年金制度の改善
② 退職年金を税金の対象からはずすこと。
- ③ 遺族年金は本人支給額の80%とし、遺族一時金・死亡一時金を支給すること。
- ④ 医療保険の充実
⑤ 老人保険法の内容を抜本的に見直し、有理化計画をただちとりやめること。
- ⑥ 老人医療費を全額公費負担とし対象を65以上とする。
- ⑦ 任意継続組合期間の延長と、保険料負担の軽減をただちとりやめること。

書中お見舞申しあげます

健康に注意して

暑さにまけず

頑張ってください。

今年も「こうたいきょう」(第三号)をつくりましょう

私たちは機関誌「こうたいきょう」を創刊し、第一号・第二号とつくってまいりました。

機関誌は私たちの顔であり、金字塔でもあります。機関誌が私たち組織の中核に坐わり、団結と交流の絆になり得るよう、今年もつづけて発行したいと思えます。多くの方々の御支援、御協力を願ひたいいたします。

「締切 九月下旬

「内容 自由

「10枚以内(四百字詰原稿紙) なお、「こうたいきょう」の目玉品ともいえる「会員近況」は、つづけて必ず載せたいと思えます。渋谷さん、小川さんの二人で想を練って、みなさんにアンケートいたしましたので、その節はみなさん全員が返信して下さい。あらかじめお願いいたしておきます。

事務局 浜田昌俊

高退協活動を強めるために

「会費納入のお願い」

高退協規約は第四条・第五条でそれぞれ会の目的・事業を定めています。最近の国際国内情勢はこれらの活動の一層の強化を求めています。

活動の原動力の一つは財政です。会費が全会員から納入されたとしても大きな活動予算は組めませんが、その会費の納入率が55年度67%、56年度63%にとどまっています。高退協会費は組合費のようにチェック・オフされませんのでお忘れになったり、かつくりがよくなることもあると思えます。よろしくお願ひします。また過年度会費未納の方にもさかのぼつての納入を訴えたいと存じます。会費納入を郵便振替で行う場合、従来は送料本部負担でしたが県退協会費ももにご送金願ひ場合送料分の不足が本部負担になることと本部収入を少しでも増額させたいとの意図から今後送料を会員負担方式にするか今後送金方法を検討することをお願ひください。

最後に高退協の活動について高教組をはじめ諸団体・個人の方から少なからぬ援助をたまわっていることをお伝えし右の件よろしくお願ひいたします。

(会計係 坂高一正)

ひとつの政治決戦

「高知市はいま地鳴りして保革燃ゆ、この斗いは勝たねばならぬ」長友門田豊氏のすばり核心を突いた一句である。十月の市長選挙にむけて県都は大きな政治決戦に突入した。

形式は無所属でも、実質は保革の対決である。中道政治の公明・民社の推せんがあるから保守ではないとは粉飾にすぎない。すべては自民党路線で、公明・民社の人民的裏切り行為は否定できないだろう。革新は自民党とは基本的に政治理念・政策を異にする無二の道である。「政策協定ができた」とわめいても、芝居の筋書き、裏舞台は見えない。自民党と異名同質の野党の実体には警戒を要する。保守系候補者後援会のポスターが街にハンランしている。

「今度こそ新しい流れにかえよう」「新しい時代に対応する三十万市政の確立」のスローガンである。が本質は「平和・民主主義否定のいつか来た道、戦争への回帰路線を歩もうとする自民党」が、公明・民社を抱きこんだ危険な道である。金権腐敗の党の真意に恐ろしいものを感じる。

政治には偽装・虚構が際限もなく多く、その構図は複雑で、広く深い。そして、真理・実実を沈滞させて、大衆の目とどかない深淵に置くものである。なにしろ、刑事被告人、目白の旦那が国政を牛耳る日本の現実を忘れては政治は語れない。「革新の拠点高知市を取り返せ」この自民党の至上命令はきびしく、動く階層が毅然としてこれに反対しなければ大変なことになる。憂うべき事態が進行している。高知民主市政の危機である。が一面では、自由民権発祥の土佐の「いごっそう」の真骨頂を保守反動につきつける絶好の対決の場でもある。「いごっそう」これは「偏屈」のみを意味するものではなく、真理の愛好、自我の信念をまげないことでもある。かめあめと保守中道に城を明け渡すことはできない。高教組は横山市政を守り抜く特別決議文を、八二年定期大会で採択して、組織の決意を表明した。ただ選挙には決意に、たぐましい行動実践が絶対的に付加されねばならない。全界の民主勢力がその全力を高知市に集中することが緊急の課題となってきた。晴耕雨読になりやすい退職の身をせひこの政治決戦に

第二回国連軍縮特別総会に参加して

前県教組委員長 西森 啓

蒙天楼を中心に高層ビルの谷間に一〇〇万人のシヨプレヒコルムがこだました。「ノーモアヒロシマ・ナガサキ」「ノー・ニューヨーク」。

第二回国連軍縮特別総会の開かれていた世界の大都市ニューヨークの六月十二日。「核兵器廃絶・軍縮・平和」を願う世界の人々が、今ここに世界のうねりをつくり、声を限りて訴える。沿道から連帯の拍手を送りながら次々とデモに加わる市民。みるみるうちに隊列はふくれあがり、ニューヨークの町は国際色に彩られて道はついでにデモが延々とつづく。バス停の屋根の上も、電話ボックスの上もすずなりの人・人・人。「二〇〇人の日本代表団にサインを高い拍手と平和を願うVサイン」。

私もこの歴史的なデモの熱気の中で「反核・平和」の願いをふくらませていく。「聞け、レットガン。そして鈴木首相よ。この世界の声を」。被爆国日本の声は、私たち代表団が懸念した五十四ヶ国のうち超大国を除く殆んどに努力すべし」と言明させた。広大な国連本会議場では各国の代表が「核兵器廃絶」を切々と訴えていた。

日教組代表団はアメリカ教育協会を訪ねた。広島・長崎の被爆写真を贈り、全米での展示・教材利用を依頼するためである。その写真の惨状に一瞬目をおろす女性副委員長。

花と霧の街サンフランシスコから一本一本ないならかな丘陵のハゲ山ばかり眺めながら一時間余、草原(今は乾期で全山枯草)の中にボットンと建つたロレンス原子力研究所。広島・長崎の原爆を開発した所。私たちはこの研究所を研究している市民団体の人々と交流した。七〇〇〇人の職員の人々に白血球発生率が高く、皮膚ガンの発生率も普通の三倍という。現に補償問題もかかっている。

私は十八日朝、世界のあらゆる人々と手を握った。被爆国民の代表として熱い願いをこめて。彼らは振り返した。草の根運動を世界のすべの町で村で職場でと奮いながら。

私たちは原水協関係を中心にビザ拒否というアメリカ政府の不当な攻撃をうけ、怒りにもえながら奮ったのである。